

〈資 料〉

国立公衆衛生院特別課程への教育評価に  
 関する調査報告（その1）  
 — 修業者からの全体的評価 —

大久保千代次<sup>1</sup>, 植田昌宏<sup>2</sup>, 佐藤龍三郎<sup>3</sup>, 田中久恵<sup>4</sup>,  
 福原守雄<sup>5</sup>, 藤田利治<sup>6</sup>, 古市徹<sup>7</sup>, 松本恭治<sup>8</sup>,  
 湯山駿介<sup>9</sup>, 渡辺征夫<sup>10</sup>, 西村昭二<sup>11</sup>, 郡山武志<sup>11</sup>,  
 (国立公衆衛生院, 生理衛生学部<sup>1</sup>, 衛生微生物学部<sup>2</sup>, 保健統計人口学部<sup>3</sup>, 公衆衛生看護学部<sup>4</sup>, 衛生薬学部<sup>5</sup>, 疫学部<sup>6</sup>, 廃棄物工学部<sup>7</sup>, 建築衛生学部<sup>8</sup>, 栄養生化学部<sup>9</sup>, 地域環境衛生学部<sup>10</sup>, 総務部<sup>11</sup>)

**Evaluation of Educational Activities of the Institute of  
 Public Health (1)  
 Evaluation of Special Course, Short-term Education,  
 by its Disciplinants**

C. OHKUBO, M. UEDA, R. SATO, H. TANAKA, M. FUKUHARA, T. FUJITA, T. FURUICHI,  
 K. MATSUMOTO, S. YUYAMA, I. WATANABE, S. NISHIMURA, T. KOORIYAMA  
*(from the Departments of Physiological Hygiene<sup>1</sup>, Public Health Microbiology<sup>2</sup>, Demography and  
 Health Statistics<sup>3</sup>, Public Health Nursing<sup>4</sup>, Pharmaceutical Science<sup>5</sup>, Epidemiology<sup>6</sup>, Waste Manage-  
 ment Engineering<sup>7</sup>, Architectural Hygiene and Housing<sup>8</sup>, Nutrition and Biochemistry<sup>9</sup>, Community  
 Environmental Science<sup>10</sup> and General Affairs<sup>11</sup>, the Institute of Public Health, Tokyo)*

C. OHKUBO, M. UEDA, R. SATO, H. TANAKA, M. FUKUHARA, T. FUJITA, T. FURUICHI,  
 K. MATSUMOTO, S. YUYAMA, I. WATANABE, S. NISHIMURA, T. KOORIYAMA *Evaluation  
 of Educational Activities of the Institute of Public Health (1) Evaluation of Special  
 Course, Short-term Education, by its Disciplinants*, Bull. Inst. Public Health, 42(4), 533  
 -542, 1993.

Main purpose of the activities of the Institute of Public Health belonging to the  
 Ministry of Health and Welfare of Japanese Government, is training public health  
 personnel and performing research works on public health. In view of rapid changes in  
 social, economic and environmental conditions, an educational program was renewed  
 since 1980. The Institute offers four courses of education, i.e., three long-term courses, at  
 least one year, including the courses leading to the Doctor of Public Health, the Master  
 of Public Health and the Diploma in Public Health, and one short-term course, one  
 month in average, Special course.

The purpose of this report is to improve the training and educational programs of the  
 Special course which is conducted for public health personnel in charge. In order to cope  
 with recent progress in health science and technology and practical needs in public  
 health, certain specific subjects are selected and its curricula are reviewed every year for  
 the purpose of continuing education. An evaluation of Special course by its disciplinants

[キーワード] 公衆衛生技術者研修, 教育評価, 国立公衆衛生院

[平成5年12月9日受理]

(n=1130) was investigated with a questionnaire and the replies were analyzed and discussed.

**Key Words** health manpower training, evaluation of educational activity, the Institute of Public Health.

(Accepted for publication, December 9, 1993)

## はじめに

国民保健の諸問題は、21世紀を目前にますます多様化、複雑化している。特に近年の変貌は、過去に例を見ないほど急峻であった。これを踏まえ、わが国が到達した公衆衛生の水準を維持・発展させるためには、高度で且つ多様性を示している国民の要求・行政需要に的確に応え、専門性を発揮できる公衆衛生従事者の供給が不可欠であり、これには卒後教育の充実・強化が求められている。特に公衆衛生従事者の実状に即応した適切な教育と訓練を計画的に提供することが重要である。

衛生行政の実践の場である保健所や地方衛生研究所等を対象とした調査においては、国レベルでの教育機会の充実が要望されている。わが国では公衆衛生従事者を対象とした国レベルの教育訓練実施機関は国立公衆衛生院のみであり、ここでの教育訓練が、その後の地方自治体の公衆衛生業務内容やその水準にどの様な効果及ぼしているかを把握することを目的として、国立公衆衛生院の短期・長期の教育課程を修業した公衆衛生従事者およびこれを派遣した各地方自治体による国立公衆衛生院への教育評価を行い、望ましい卒後教育システムを検討したので報告したい。

報告の1回目として、国立公衆衛生院が行っている短期的教育研修事業である特別課程に的を絞って、調査票を用いて同課程修業者から国立公衆衛生院が行った教育・訓練に対する評価をしてもらい、これを解析した。本報告(その1)は、調査対象となった9コースの修業者全体の共通質問項目に対する回答結果をまとめたものであり、各コース別の結果は順次報告する。

## 調査方法

過去5年(昭和62年~平成3年度)に遡ってその間に特別課程として実施した公衆衛生特論、公衆栄養、成人病対策(循環器疾患予防、がん対策を含む)、老人保健、健康教育(衛生教育を含む)、保健福祉、感染症

対策(保健計画・感染症対策を含む)、細菌、ウイルス、寄生虫・衛生昆虫、思春期保健、公衆衛生看護管理、公衆衛生看護活動方法論、薬事衛生管理、食品衛生管理、食肉衛生検査、医療放射線監視、住居衛生、建築物衛生(建築環境工学を含む)、水管理工学、廃棄物処理、公衆衛生精神保健、環境・衛生化学特論の合計24コースのうち対象職種等を考慮して表1に示す9コース(途中で名称が変更されたコースをそれぞれ数えると11コース)を選んだ。

表1 コース別修業者数と調査票回収率

	コース名	修業者数 (人数)	回収率 (%)
1	成人病対策(がん対策、循環器疾患予防を含む)	64	70.3
2	ウイルス	87	81.6
3	環境・衛生化学特論	45	84.4
4	公衆衛生看護管理	174	67.8
5	公衆栄養	171	71.9
6	公衆衛生特論	231	75.7
7	住居衛生	91	86.8
8	食品衛生管理	228	86.0
9	廃棄物処理	139	77.7
	合計(平均)	1,230	(74.4)

調査対象となった修業者数は、表1に示す如く合計が1,230名で、過去5年間に国立公衆衛生院特別課程の修業者数全体(2,013名)の61.1%に相当する。

修業者への調査票の内容は全てのコースに共通する質問項目と各コース独自の質問項目に大別されている。本報告は修業者への質問項目のうち、共通部分に関する回答を解析したもので、その共通する質問項目を資料1に、得られた回答をもとに単純集計した結果を資料2に掲載した。調査票の配布は平成4年12月に

行い、平成5年2月末日までに回収できた回答についてその結果を解析した。

## 調査結果

### 1. 回収率

総配布数が1,230名、回収できたのは952名で全体の回収率は77.4%であった(表1参照)。因に、952名は、過去5年間に国立公衆衛生院が実施した特別課程の修業者数全体が2,013名であるのでその約半数、47.3%に相当する。回答者の年齢構成は、40歳代(44.6%)、30歳代(37.8%)、50歳代(12.2%)、60歳代(2.7%)、20歳代(2.3%)の順であった。

### 2. 調査内容

#### 1) 受講前の研修経験

コースを受講する際、これまでの研修受講経験について尋ねたところ、コース修業者の89.6%は特別課程を初めて受講し、61.6%は期間が1週間以上にわたる研修(例：県の研修等)を経験していなかった。

#### 2) 教育施設への評価

受講中に使用した教室や実習室への評価であるが、「使いやすい」あるいは「普通である」と答えたのは63.0%で、逆に「使いにくい」と評価したのは36.4%であった。年齢別に見てもほぼ同じ傾向にあった。

#### 3) 受講後の変化

受講後職場に復帰してからのできごとについては、①地位や給与の面で優遇処置の有無に対する受講の影響は、「わからない」が52.0%で過半数を占め、「あった」と答えた人は僅か5.1%であった。②業務全体に対する意欲に及ぼす受講の影響については、「大いに増した」および「増した」を合わせると83.6%と大多数の修業者が業務への意欲増進に特別課程受講が役立ったと評価していた。同様に③業務に対する自信に及ぼす受講の影響については、「大いに増した」および「増した」を合わせると80.3%と大多数の修業者が特別課程受講が業務への自信に役立ったと評価していた。④、⑤の両項目とも年齢構成に関係なくほぼ同じ回答率を得た。④受講が周囲からの評価に及ぼした影響については、「評価が大いに増した」および「増した」を合わせると少数の27.8%にとどまったものの、年齢が高まるとその数値は上昇した。なお、「減った」と評価した人は僅か0.1%であった。⑤職場での伝達講習実施の有

無については、68.4%の人が実施していた。⑥管内技術者に対する教育活動の参加の有無については、平均33.3%の人が参加しているが、そのうち60歳代で57.7%と高値を示した。さらに教育活動に参加した人に対して⑦受講が教育活動参加に及ぼした影響について質問したところ、「受講が大いに役だった」が25.9%、「役だった」が67.8%で、両者を合計すると93.7%の人が特別課程受講の効果を指摘していた。一方、⑧現在の業務については、「受講時とは異なる」と答えた人は39.4%で、中でも50歳代の人は46.7%と高い値を示していた。さらに⑨その異動の時期については「受講後1年未満の異動」が61.3%であり、特に60歳代で80.8%と高値を示した。

#### 4) 修業者の交流・情報交換

修業者相互の交流・情報交換に関しては、①受講時に以前からの面識があった人がいた人は29.9%で、60歳代では50.0%を占めていた。②受講後組織的に情報交換を行っている人が46.0%で、③受講後個人的に情報交換を行っている人が71.2%と、個人的に情報交換を行っている人がかなりの数に上った。一方、国立公衆衛生院の職員との交流は修業者の23.1%しか行っておらず、コース受講時の外来講師との交流はわずかに8.8%と低い率を示した。

#### 5) 「入学案内」、機関誌「公衆衛生研究」の熟知度

国立公衆衛生院の「入学案内」は、職場にあることを知っている人が63.9%で、その殆どの人が閲覧可能な状態になっているものの、「職場にない」あるいは「分からない」と答えた人も35.8%を占めていた。一方、機関誌である「公衆衛生研究」は、職場にあることを知っている人が43.4%で、その殆どの人が閲覧可能な状態になっているものの、「職場にない」あるいは「分からない」と答えた人が過半数の55.7%を占めていた。さらに本誌への投稿希望は低く僅かに12.9%に過ぎず、購入希望もほぼ同じ数値を示した。

#### 6) 受講後および今後の研修

コース受講後の5年間に、①国立公衆衛生院の他のコース受講の有無は、わずか6.1%の人しか再受講しておらず、特に受講後間のない平成2・3年の修業者では3.9%・2.5%と低い値を示した。さらに②期間が1週間以上の国立公衆衛生院以外の研修コース受講の有無については、17.8%の人が何等かの研修を受講し

ており、60歳代では30.8%の人が受講していた。③将来国立公衆衛生院の特別課程を受講希望するかどうかでは、「同一のコースを再受講したい」が34.6%、「他のコースを受講したい」が35.8%で全体の70.4%が受講を希望していた。また、④受講した国立公衆衛生院の特別課程を他の職員に推薦するかどうかでは、89.4%の人が推薦すると回答し、推薦しないと答えた人はわずかに0.7%であった。⑤国立公衆衛生院の長期課程(専門・専攻課程)への応募意志については、「是非応募したい」が3.8%、「応募したいが職場の事情が許さない」が33.6%で、応募を希望する人は37.4%であった。これには年齢と逆相関が見られ、20歳代では54.3%、30歳代では45.2%、40歳代では35.7%、50歳代では30.6%、60歳代では0%と高年齢になる程応募する意志が減少した。なお、「現時点で判断できない」が33.5%、「応募する気がない」が25.6%であった。

#### 7) 寄宿舎

寮生活に関する質問では、①入寮の有無については、73.1%が「入寮」しており、年齢とは逆相関が見られ最高が20歳代で95.5%、最低が60歳代の57.7%であった。②寮の個室化については、「現状の2人部屋がよい」が8.8%で、「個室がよい」が29.2%で、「希望に応じて」が52.2%を占めた。③もし再受講する場合の入寮希望は、74.8%の人が「入寮を希望」しており、15.9%の人が希望しなかった。

#### 8) 特別課程への全般的評価

最後に国立公衆衛生院の特別課程の教育理念、即ち「わが国の公衆衛生技術者の生涯教育の一環として、現場での現在の問題解決を目指すだけでなく、公衆衛生の専門家としての資質の向上と、中長期の将来ニーズにも応え得るよう、広い視野と科学的な基盤を与える教育」を目指していることについて尋ねた。①他の研修と比較して上記の教育理念を感じたか否かについては、受講直後では、75.4%の人が「感じた」と答えていた。「感じなかった」は7.2%で、「わからなかった」が13.4%であった。現在(調査実施時点)でもほぼ同様の数値を得た。さらに、②それぞれのコースを受講した印象は、「自分の意図したものに合っていた」と答えた人が63.1%、「どちらとも言えない」が32.1%、「場違いのコースであった」は1.3%となっていた。

## 考 察

調査票の回収率は、対象者の77.4%にのぼったが、未回収者の中には転・退職し、宛名不明の者も含まれるので、これらを除いた実質的な回収率はさらに高いとみることができる。このような高い回収率が示されたことは、それ自体修業者の国立公衆衛生院特別課程に対する肯定的な評価の表れと言えよう。

以下、調査票の集計結果に対して項目別に考慮を加えていくが、派遣元への調査票の解析がまだ完了していないこと(付記参照)、また修業者への調査も過去5年間に実施した24コースのうち11コースを対象としたものであることから、今回の結果報告より特別課程全般に対する評価を導くには一定の制約は免れないと言える。しかし今回の952名という回答者数はこの間の全24コースの修業者数の47.3%に相当する人数である。即ち過去5年間に国立公衆衛生院の特別課程を修業した公衆衛生技術者の約半数から意見・評価を集積できたことになり、特別課程全般に対する十分な判断材料になり得るものと考えられる。

まず年齢構成であるが、40歳～30歳代が多数を占めるのは理解できるが、20歳代が全体の2.3%と極端に少ない。これには国立公衆衛生院の特別課程が、公衆衛生特論を除き、原則として初任者教育を行わないため受講資格面の影響が考えられよう。また、60歳代の修業者が全体の2.7%を占めているが、このうち大半は公衆衛生特論コースの受講者である。同コースは衛生局または保健所に新たに勤務する医師、歯科医師を対象に、公衆衛生に関する基礎訓練の実施を目的としているが、平成3年4月保健所法施行令第4条第3号に、保健所長になるための必修コースと位置づけされた経緯があり、これまで県立病院等の地方自治体付属病院等に勤務し、公衆衛生行政に関する知識・経験に乏しい医師が保健所に異動した際に同コースを受講するなどの例が今後も増加すると予想される。

国立公衆衛生院において約1ヶ月間実施する特別課程は国立公衆衛生院の教育・訓練課程の中では短期的課程に位置づけされている。一方、地方自治体に所属する公衆衛生技術者への研修は派遣元への調査票の解析が未着手なので全容は不明であるものの、受講時までに全体の9割が約1ヶ月の国立公衆衛生院の研修

を、6割が1週間以上にわたる何らかの研修を受講した経験がないことから、自治体としては1週間以上にわたる派遣には何等かの障害があると推察される。しかしこれは派遣元への調査票の解析結果を待つ必要がある。

受講中に使用した教室や実習室への評価は余り芳しいものではなく、実習用機器を含め、国立公衆衛生院の施設・備品の老朽化が目立っており、地方自治体の方が最新の機器を整備していることがまま見受けられ技術的な指導を行う場合の問題発生が懸念されており、改善が要望される。

特別課程受講後、職場に復帰してからの変化については、業務に対する「意欲」および「自信」が受講によって「大いに増した」あるいは「増した」と回答した修業者は共に8割以上を占めており、特別課程の存在意義の一部がここに示されているものと理解される。なお、受講が「地位や給与の優遇処置」に関係したと思う人は僅かに5.1%にすぎず、大半が「わからない」であった。質問内容が本人自身の主観的評価をするにはふさわしくなかったと思われる。「周囲からの評価」についても同様であろう。「職場での伝達講習」は7割近い人が実施しており、今後は伝達講習が実施されることを前提に講義の資料等にもそれなりの配慮する必要がある。「管内技術者への教育活動」には3分の1の人が参加しており、その際「受講が大いに役立った」と「役立った」を合わせると9割強にものぼり、特別課程受講の効果を指摘する声が非常に大きい。

一方、受講時の業務と現在の業務が異なっている人が約4割で、さらにその異動時期も受講後1年未満が6割を占めていた。

次に修業者の交流については、受講を契機にして4割の人が、受講以前からのも含めると7割の人が現在でも個人的に種々の情報交換を続けており、全国的規模で各地からの修業生を輩出している特別課程の特色が、別の面で生かされていると思われる。その反面、国立公衆衛生院職員との交流は2割強、外来講師との交流は1割に満たない。職員を含む講師陣との交流をもっと盛んにすることが、よりよい生涯教育を提供する素地につながると思われる。

入学案内および国立公衆衛生院の機関誌である「公衆衛生研究」は各自治体衛生主幹部(局)および保健

所、衛生研究所等へ毎年あるいは毎回送付されているものの入学案内は約3分の1の人が職場に「ない」、あるいは「不明」と答えており、公衆衛生研究では過半数の人が同様な答えを出しており、残念ながら機関誌への関心度はかなり低いと言わざるを得ない。ただし、機関誌の保健所および一部の衛生研究所への定期的送付は平成3年度から実施された経緯があり、未だその効果が出ていない可能性も否定できない。いずれにせよ今後は国立公衆衛生院が行っている教育・研究を広く知ってもらうための広報活動に力を入れる必要があると思われる。

国立公衆衛生院の特別課程を将来受講したいと希望している人は7割を占めているが、受講後の5年間に、国立公衆衛生院のコースを再び受講したのは僅か6%にすぎなかった。国立公衆衛生院では公衆衛生技術者の生涯教育を目的としているものの実態は厳しいことが明らかとなった。これには国立公衆衛生院の受け入れ枠の問題と派遣元の事情があると思われるが、派遣元に関する調査票の解析により解明されよう。受け入れ枠の拡大は教室や寄宿舎などの施設、実習用機器などの備品の整備と教育スタッフの充実が必要である。なお、受講後研修期間が1週間以上の国立公衆衛生院以外の研修に参加した人の割合は2割弱であったが、この数値を低いと判断するかあるいは高いと判断するかは議論を重ねる必要がある。

受講した国立公衆衛生院の特別課程を他の職員に推薦する人が9割弱を占めており、これまで企画・実施してきた教育に対し予想以上の高い評価を与えていると思われる。なお、国立公衆衛生院の専門・専攻課程への応募意志は、20~30歳代で約半数が応募を希望しており、長期課程についても受け入れ枠の拡大を検討する必要があると思われる。

寄宿舎であるが、受け入れ側の国立公衆衛生院の寮は部屋数の関係から特別課程は現在2人部屋制となっており、個室制を希望する修業者が少なからずいたが、調査の結果でも個室制を今後導入する必要があると思われる。

最後に国立公衆衛生院の実施する特別課程は単に技術研修だけでなく、生涯教育として位置づけた教育であること、この教育理念を感受した人が、4分の3に達していたことから国立公衆衛生院の教育目的が十

分とは言えないものの、かなり達成されているとみてよいと思われる。さらに、それぞれのコースを受講した印象でも、6割強の人が意図したものと合致していると回答を寄せていた。

以上のことから、基本的には国立公衆衛生院の特別課程が企画・運営してきた教育システムは概ね高い評価を受けているが、今後受け入れ枠の拡大、施設備品の改善等の課題を解決する必要がある。

付記：今回実施した調査は修業者のみならずその派遣元である都道府県、特別区、政令市等の自治体合計122ヶ所に対しても調査票を用いて特別課程への教育評価を実施したが、現在派遣元に関する解析が終了していないので、今回は修業者から寄せられた意見についてのみ報告し、派遣元からの教育評価は別に報告する。なお、派遣元への調査対象の概略を記すと、47の都道府県、32の政令市、23の特別市を対象としたが、12の都道府県と8の政令市には調査対象となる部が2ヶ所(例：環境部と衛生部)にまたがった行政機構を構成しているため、合計122ヶ所の衛生部局がその対象となった。さらにその質問内容について概略すると、各自治体における①公衆衛生技術者の職種と人数、②研修派遣の実態、③国立公衆衛生院が実施する特別課程に対する意見、④過去5年間に行われた特別課程の各コースに対する意見・評価等に関して調査したものである。

## 結 論

過去5年間に実施された国立公衆衛生院特別課程の修業者全体の約半数から特別課程に対する意見・評価を求めた結果は以下に要約された。

①修業者は生涯教育として国立公衆衛生院での再教育を大多数の人が希望しているものの、その機会になかなか恵まれていない。

②受講が職場復帰後の業務に対する意欲や自信の増進に大きく貢献し、他の技術者への教育に非常に役立っている。

③受講したコースを多数の人が自分の意図したものであったと評価し、大多数の人が他の職員に受講を勧めており、これまで実施してきた特別課程の企画・運

営が高い評価を得ているものと理解された。

④受講後の伝達講習を7割近くの人が行っている。

⑤受講後業務異動する人が少なくなく、その異動も受講後1年未満であった。

⑥国立公衆衛生院の受け入れ枠拡大のため教育スタッフの充実と共に、施設・備品の老朽化が目立っており、今後の改善が望まれる。

⑦入学案内および機関誌である「公衆衛生研究」の熟知度は高くなく、機関誌への関心も低い。国立公衆衛生院の教育・研究に関する広報活動を高める必要がある。

## おわりに

本調査は、平成4年度厚生科学研究費補助金(特別研究事業)「わが国の公衆衛生従事者の卒後教育システムに関する基礎的研究」(研究員：染谷四郎、野崎定彦、曾田研二、横山栄二)からの資金的援助を受けて行われた。

本調査を実施するにあたり、全国衛生部長会、同伊田八洲雄会長、川口毅埼玉県衛生部長、本間泉山形県環境保健部技監、埼玉県衛生部をはじめとする全国の衛生部(局)の方々は大変御尽力を賜った。さらに本院総務部教務課、各研究部にも大変お世話になった。ここに深く謝意を申し上げる。

## 参考文献

- 1) 染谷四郎：公衆衛生従事者の教育訓練の動向と課題。日本公衛誌，22(4)，209，1975。
- 2) 染谷四郎：わが国の公衆衛生従事者の現状とその教育訓練の課題。公衆衛生情報，pp.26-38，1976。
- 3) 公衆衛生従事者の地方における初任者研修のあり方に関する研究。昭和53年度厚生科学研究報告書，1978。
- 4) 同上，昭和54年度厚生科学研究報告書，1979。
- 5) 植田昌宏，方波見重兵衛，岩島 清，鈴木 建，田中勝，林 謙治，富里和子，渡辺征夫，田中恒雄，立山昭七郎：国立公衆衛生院における公衆衛生従事者の教育--とくに教育対象を中心として--。公衛研，37(1-2)，23-29，1988。
- 6) 国立公衆衛生院創立50周年記念誌，国立公衆衛生院，1988。

資料①

修業者への調査票

本調査内容は、全体としてまとめて処理します。個々の記入者や記入内容が公表されることはありませんので差し支えなければ記名頂ければと思います。

回答者 勤務先： \_\_\_\_\_  
氏名： \_\_\_\_\_

以下の設問の該当すると思われる内容の番号・記号を選び○で囲んでください。また、必要な場合には、( ) あるいは枠の中にコメントを記入してください。なお、スペースが不足する場合は用紙の余白を使ってください。

質問1 あなたが本コースを受講したのは、何年度でしたか？

- 1. '84(S59)年度
- 2. '85(S60)年度
- 3. '86(S61)年度
- 4. '87(S62)年度
- 5. '88(S63)年度
- 6. '89(H1)年度
- 7. '90(H2)年度
- 8. '91(H3)年度

質問2 あなたは本コースを受講する前に国立公衆衛生院の他のコースを受講したことがありますか？

- 1. ある (コース・課程名： \_\_\_\_\_ )
- 2. ない

質問3 あなたは本コースを受講する前に国立公衆衛生院以外の研修コース(1週間程度以上)を受講したことがありますか？

- 1. ある (具体的に： \_\_\_\_\_ (例：環境研修所、県の研修コースなど) )
- 2. ない

質問4 あなたが受講中に使用した教室や実習室はどう感じましたか？

- 1. 教室： 1. 使いやすかった 2. ふつう 3. 使いにくかった
- どのような点が ( \_\_\_\_\_ )

質問5 本コース終了後職場に復帰してからのことをお尋ねします。

- 1) 地位や給与の面での優遇処置はあったと思いますか？  
1. あった 2. どちらとも言えない 3. なかった
- 2) 受講したことにより業務全体に対する意欲は増しましたか？  
1. 大いに増した 2. 増した 3. 変化はなかった 4. 減った
- 3) 受講したことにより業務に対する自信は増しましたか？  
1. 大いに増した 2. 増した 3. 変化はなかった 4. 減った
- 4) 受講したことにより周囲の評価は増しましたか？  
1. 大いに増した 2. 増した 3. 変化はなかった 4. 減った
- 5) 職場での伝達講習はしましたか？  
1. した 2. しなかった
- 6) 管内の他の技術者への教育活動に参加しましたか？  
1. した 2. しなかった
- 7) 前問で「1.」と答えられた方にお尋ねします。その際本コース受講の経験は役に立ちましたか？  
1. 大いに役立った 2. 役立った 3. どちらとも言えない 4. 役立たなかった
- 8) 現在の業務は受講時と同じですか？  
1. 受講時と同じ 2. 異なる
- 9) 前問で「2.」と答えられた方にお尋ねします。  
①現在の業務はどの様なものですか？ ( \_\_\_\_\_ )  
②その業務に変わったのは復帰後何年目でしたか？ ( \_\_\_\_\_ )年目

質問6 受講後職場に復帰してからの交流・情報交換についてお尋ねします。

- 1) 受講生相互の交流や情報交換について。  
①今回の受講生の中で、以前から面識があった人はいましたか？  
1. いた： ( \_\_\_\_\_ )人 2. いなかった
- ②受講を機会に知り合った人と仕事やその他の事で組織的に情報交換をしていますか？  
1. している 2. していない
- ③前問で「1.」と答えられた方にお尋ねします。その交流の持ち方はどのようなものですか？  
1. 同窓会的なもの 2. 勉強会 3. その他 ( \_\_\_\_\_ )
- ④受講を機会に知り合った人と仕事やその他の事で個人的に情報交換をしていますか？  
1. している 2. していない
- 2) 国立公衆衛生院の職員と仕事やその他のことで情報交換をしていますか？  
1. している 2. していない
- 3) 本コースの外來講師と、仕事やその他のことで情報交換をしていますか？  
1. している 2. していない

質問7 国立公衆衛生院から発行している「入学案内」および機関誌である「公衆衛生研究(平成2年度以前は、公衆衛生院研究報告)」に関してお尋ねします。

- 1) 「入学案内」については？  
1. 職場にあることを知っている 2. 職場にない  
3. 職場にあるかどうか分からない
- 2) 前問で「1.」と答えられた方にお尋ねします。その取扱いはどうですか？

- 1. 自由に閲覧できる 2. 希望すればできる 3. 閲覧しにくい
- 3) 「公衆衛生研究」(以前は「公衆衛生院研究報告」)については？  
1. 職場にあることを知っている 2. 職場にない  
3. 職場にあるかどうか分からない
- 4) 前問で「1.」と答えられた方にお尋ねします。その取扱いはどうですか？  
1. 自由に閲覧できる 2. 希望すればできる 3. 閲覧しにくい
- 5) 「公衆衛生研究」は、全国の保健所・衛生研究所等の公衆衛生従事者に広く開かれておりますが、本誌に投稿する希望がありますか？  
1. ある 2. ない
- 6) 「公衆衛生研究」は全国の衛生部、保健所等の機関に配布されておりますが、有料で個人購読を希望されますか？  
1. 希望する 2. 希望しない

質問8 本コース受講後のことについてお尋ねします。

- 1) あなたは本コースを受講した後に国立公衆衛生院の他のコースを受講しましたか？  
1. した (コース・課程名： \_\_\_\_\_ ) 2. していない
- 2) あなたは、本コースを受講した後で、国立公衆衛生院以外の研修コース(1週間程度以上)を受講しましたか？  
1. した (具体的に： \_\_\_\_\_ ) 2. していない  
(例：環境研修所、県の研修コースなど)
- 3) 将来機会がありましたら、再び本院の特別課程のコースを受講したいと思えますか？  
1. 本コースを再度受講したい  
2. 他のコースを受講したい (具体的に： \_\_\_\_\_ )  
3. 再度の受講は考えていない
- 4) 職場の同僚や後輩に、本コースの受講を推薦する気持ちがありますか？  
1. ある 2. どちらとも言えない 3. ない
- 5) 前問で「3.」と答えられた方にお尋ねします。その理由は何ですか？  
\_\_\_\_\_

6) 国立公衆衛生院には1年以上にわたり在籍する専攻課程や専門課程等がありますが、これらに応募する意志はありますか？  
1. 是非応募したい 2. 応募したいが職場の事情が許さない  
3. 応募する気はない 4. 現時点では判断できない

7) 現在あなたの年齢はどこに当てはまりますか？  
1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代 5. 60歳代

質問9 国立公衆衛生院の特別課程に新しいコースを設けるとしたら、あなたはどのような内容のコースを期待しますか？ 具体的に記入して頂ければ幸いです。

\_\_\_\_\_

質問10 国立公衆衛生院の特別課程では、受講生の相互交流を促進するために寮生活を体験して頂くことを勧めています。

- 1) あなたは寮に入りましたか？  
1. 入った (理由： \_\_\_\_\_ )  
2. 入らなかった (理由： \_\_\_\_\_ )
- 2) 寮の部屋は個室の方が良いと思いますか？  
1. 現在のように2人部屋がよい 2. 希望に応じて個室にすればよい  
3. 全員、個室にしたほうがよい
- 3) もし、再度受講するとした場合は？  
1. 寮に入りたい  
2. 入りたくない
- 4) 改善した方がよい点など寮についてのご意見をお聞かせください。  
\_\_\_\_\_

質問11 最後の質問になりました。

- 国立公衆衛生院の特別課程は、「わが国の公衆衛生技術者の生涯教育の一環として、現場での現在の問題解決を目指すだけではなく公衆衛生の専門家としての資質の向上と、中長期的将来ニーズにも応え得るよう、広い視野と科学的な基盤を与える教育」との考え方で企画・実施しております。
- 1) 他の研修機会とくらべてそのような点が感じられましたでしょうか？  
①コース終了直後： 1. 感じた 2. 感じなかった  
②現在： 1. 感じた 2. 感じない 3. わからない
- 2) 受講されたコースの印象はどうでしたか？  
1. 自分の意図していたものに合っていた  
2. どちらとも言えない  
3. 場違いのコースであった
- 3) 国立公衆衛生院のコースを実際に受講されて、その企画や運営、その他についてご要望がありましたら、ご自由にお書きください。  
\_\_\_\_\_

以上です。御協力ありがとうございました。

資料 ②

本市別健康増進教育評価調査結果  
 事業年度別調査結果

注： CODE=0は設問に対して無記入の場合を示す

A2 質問1 あなたが本コースを受講したのは、何年度でしたか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
0. 無記入	0	1	0.1
1.'84(S59)年度	1	22	2.3
2.'85(S60)年度	2	2	0.2
3.'86(S61)年度	3	17	1.8
4.'87(S62)年度	4	146	15.3
5.'88(S63)年度	5	208	21.8
6.'90(H1)年度	6	150	15.8
7.'90(H2)年度	7	204	21.4
8.'91(H3)年度	8	202	21.2
TOTAL		952	100.0

A2 質問2 あなたは本コースを受講する前に国立公衆衛生院の他のコースを受講したことがありますか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
0	0	3	0.3
1. ある	1	96	10.1
2. ない	2	853	89.6
TOTAL		952	100.0

A3 質問3 あなたは本コースを受講する前に国立公衆衛生院以外の研修コース（1週間程度以上）を受講したことがありますか？  
 (例：環状研修所、県の研修コースなど)。

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
0	0	4	0.4
1. ある	1	362	38.0
2. ない	2	586	61.6
TOTAL		952	100.0

A4 質問4 あなたが受講中に使用した教室や実習室はどう感じましたか？

1)教室

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
0	0	5	0.5
1. 使いやすかった	1	63	6.6
2. ふつう	2	537	56.4
3. 使いにくかった	3	347	36.4
TOTAL		952	100.0

A5 質問5 本コース終了後職場に復帰してからのことをお尋ねします。

1)地位や給与の面での待遇処置はあったと思いますか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
0	0	3	0.3
1. あった	1	49	5.1
2. どちらとも言えない	2	405	42.5
3. なかった	3	495	52.0
TOTAL		952	100.0

A6 2)受講したことにより業務全体に対する意欲は増しましたか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
0	0	3	0.3
1. 大いに増した	1	158	16.6
2. 増した	2	638	67.0
3. 変化はなかった	3	152	16.0
4. 減った	4	1	0.1
TOTAL		952	100.0

A7 3)受講したことにより業務に対する自信は増しましたか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
0	0	3	0.3
1. 大いに増した	1	83	8.7
2. 増した	2	682	71.6
3. 変化はなかった	3	182	19.1
4. 減った	4	2	0.2
TOTAL		952	100.0

A8 4)受講したことにより周囲の評価は増しましたか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
0	0	21	2.2
1. 大いに増した	1	12	1.3
2. 増した	2	252	26.5
3. 変化はなかった	3	666	70.0
4. 減った	4	1	0.1
TOTAL		952	100.0

A9 5)職場での伝達講習はしましたか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
0	0	6	0.6
1. した	1	651	68.4
2. しなかった	2	295	31.0
TOTAL		952	100.0

A10 6)管内の他の技術者への教育活動に参加しましたか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
0	0	16	1.7
1. した	1	317	33.3
2. しなかった	2	619	65.0
TOTAL		952	100.0

A11 7)前問で「1.」と答えられた方にお尋ねします。その際本コース受講の経験は役に立ちましたか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
0	0	617	64.8
1. 大いに役立つ	1	87	9.1
2. 役立つ	2	227	23.8
3. どちらとも言えない	3	18	1.9
4. 役立つなかった	4	3	0.3
TOTAL		952	100.0

A12 8)現在の業務は受講時と同じですか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
0	0	6	0.6
1. 受講時と同じ	1	571	60.0
2. 異なる	2	375	39.4
TOTAL		952	100.0

A13 9)前問で「2.」と答えられた方にお尋ねします。  
 ①現在の業務はどの様なものですか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
0	0	581	61.0
記入者	1	371	39.0
TOTAL		952	100.0

A14 ②その業務に変わったのは復帰後何年目でしたか？  
 ( )年目

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
0	0	584	61.3
1	1	152	16.0
2	2	190	19.5
3	3	54	5.7
4	4	43	4.5



5	15	1.6
6	2	0.2
8	1	0.1
9	1	0.1
-----		
TOTAL	952	100.0

A15 質問6 受講後職場に復帰してからの交流・情報交換についてお尋ねします。

1) 受講生相互の交流や情報交換について。

① 今回の受講生の中で、以前から面識があった人はいましたか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	3	0.3
1. いた	1	285	29.9
2. いなかった	2	664	69.7
-----			
TOTAL		952	100.0

A16 ② 受講を機会に知り合った人と仕事やその他の事で組織的に情報交換をしていますか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	5	0.5
1. している	1	438	46.0
2. していない	2	509	53.5
-----			
TOTAL		952	100.0

A17 ③ 前問で「1.」と答えられた方にお尋ねします。その交流の持ち方はどのようなものですか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	514	54.0
1. 同窓会的なもの	1	262	27.5
2. 勉強会	2	19	2.0
3. その他	3	157	16.5
-----			
TOTAL		952	100.0

A18 ④ 受講を機会に知り合った人と仕事やその他の事で個人的に情報交換をしていますか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	9	0.9
1. している	1	678	71.2
2. していない	2	265	27.8
-----			
TOTAL		952	100.0

A19 2) 国立公衆衛生院の職員と、仕事やその他のことで情報交換をしていますか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	6	0.6
1. している	1	220	23.1
2. していない	2	726	76.3
-----			
TOTAL		952	100.0

A20 3) 本コースの外來講師と、仕事やその他のことで情報交換をしていますか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	11	1.2
1. している	1	84	8.8
2. していない	2	857	90.0
-----			
TOTAL		952	100.0

A21 質問7 国立公衆衛生院から発行している「入学案内」および機関誌である「公衆衛生研究（平成2年度以前は、公衆衛生院研究報告）」に関してお尋ねします。

1) 「入学案内」については？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	3	0.3
1. 職場にあることを知っている	1	608	63.9
2. 職場にない	2	168	17.6
3. 職場にあるかどうか分からない	3	173	18.2
-----			
TOTAL		952	100.0

TOTAL	952	100.0
-------	-----	-------

A22 2) 前問で「1.」と答えられた方にお尋ねします。その取扱いはどうですか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	341	35.8
1. 自由に閲覧できる	1	390	41.0
2. 希望すればできる	2	195	20.5
3. 閲覧しにくい	3	26	2.7
-----			
TOTAL		952	100.0

A23 3) 「公衆衛生研究」（以前は「公衆衛生院研究報告」）について

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	9	0.9
1. 職場にあることを知っている	1	413	43.4
2. 職場にない	2	197	20.7
3. 職場にあるかどうか分からない	3	333	35.0
-----			
TOTAL		952	100.0

A24 4) 前問で「1.」と答えられた方にお尋ねします。その取扱いはどうですか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	530	55.7
1. 自由に閲覧できる	1	307	32.2
2. 希望すればできる	2	94	9.9
3. 閲覧しにくい	3	21	2.2
-----			
TOTAL		952	100.0

A25 5) 「公衆衛生研究」は、全国の保健所・衛生研究所等の公衆衛生従事者に広く開かれています。本誌に投稿する希望がありますか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	62	6.5
1. ある	1	123	12.9
2. ない	2	767	80.6
-----			
TOTAL		952	100.0

A26 6) 「公衆衛生研究」は全国の衛生部、保健所等の機関に配布されていますが、有料で個人購読を希望されますか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	40	4.2
1. 希望する	1	113	11.9
2. 希望しない	2	799	83.9
-----			
TOTAL		952	100.0

A27 質問8 本コース受講後のことについてお尋ねします。

1) あなたは本コースを受講した後に国立公衆衛生院の他のコースを受講しましたか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	1	0.1
1. した	1	58	6.1
2. していない	2	893	93.8
-----			
TOTAL		952	100.0

A28 2) あなたは、本コースを受講した後で、国立公衆衛生院以外の研修コース（1週間程度以上）を受講しましたか？  
(例、環境研修所、県の研修コースなど)。

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	11	1.2
1. した	1	169	17.8
2. していない	2	772	81.1
-----			
TOTAL		952	100.0

特別課程への教育評価に関する調査報告（その1）

A29 3) 将来機会がありましたら、再び本院の特別課程のコースを受講したいと思いますか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	24	2.5
1. 本コースを再度受講したい	1	329	34.6
2. 他のコースを受講したい	2	341	35.8
3. 再度の受講は考えていない	3	258	27.1
TOTAL		952	100.0

A30 4) 職場の同僚や後輩に、本コースの受講を推薦する気持ちがありますか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	2	0.2
1. ある	1	851	89.4
2. どちらとも言えない	2	92	9.7
3. ない	3	7	0.7
TOTAL		952	100.0

A31 5) 前問で「3」と答えられた方にお尋ねします。その理由は何ですか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	929	97.6
記入者	1	23	2.4
TOTAL		952	100.0

A32 6) 国立公衆衛生院には1年以上にわたり在籍する専攻課程や専門課程等がありますが、これらに応募する意欲はありますか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	11	1.2
1. 是非応募したい	1	36	3.8
2. 応募したいが事情が許さない	2	320	33.6
3. 応募する気はない	3	244	25.6
4. 現時点では判断できない	4	319	33.5
5. その他	5	22	2.3
TOTAL		952	100.0

A33 7) 現在あなたの年齢はどこに当てはまりますか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	3	0.3
1. 20歳代	1	22	2.3
2. 30歳代	2	360	37.8
3. 40歳代	3	425	44.5
4. 50歳代	4	116	12.2
5. 60歳代	5	26	2.7
TOTAL		952	100.0

A34 質問9 国立公衆衛生院の特別課程に新しいコースを設けるとしたら、あなたはどのような内容のコースを期待しますか？ 具体的に記入して頂ければ幸いです。

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	646	67.9
記入者	1	306	32.1
TOTAL		952	100.0

A35 質問10 国立公衆衛生院の特別課程では、受講生の相互交流を促進するために寮生活を経験して頂くことを勧めています。

1) あなたは寮に入りましたか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	3	0.3
1. 入った	1	696	73.1
2. 入らなかった	2	253	26.6
TOTAL		952	100.0

A36 2) 寮の部屋は個室の方が良いと思いますか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	93	9.8
1. 現在のように2人部屋が良い	1	84	8.8
2. 希望に応じて個室にすればよい	2	497	52.2
3. 全員、個室にしたほうがよい	3	278	29.2
TOTAL		952	100.0

A37 3) もし、再度受講するとした場合は？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	89	9.3
1. 寮に入りたい	1	712	74.8
2. 入りたくない	2	151	15.9
TOTAL		952	100.0

A38 4) 改善した方がよい点など、寮についてのご意見をお聞かせください。

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	524	55.0
記入者	1	428	45.0
TOTAL		952	100.0

A39 質問11 国立公衆衛生院の特別課程は、「わが国の公衆衛生技術者の生涯教育の一環として、現場での現在の問題解決を目指すだけでなく公衆衛生の専門家としての資質の向上と、中長期的将来ニーズにも応え得るよう、広い視野と科学的な基盤を与える教育」との考え方で企画・実施しております。

1) 他の研修機会とくらべて、そのような点が感じられましたでしょうか？

①コース修了直後：

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	37	3.9
1. 感じた	1	718	75.4
2. 感じなかった	2	69	7.2
3. わからなかった	3	128	13.4
TOTAL		952	100.0

A40 ②現在：

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	50	5.3
1. 感じる	1	700	73.5
2. 感じない	2	66	6.9
3. わからない	3	136	14.3
TOTAL		952	100.0

A41 2) 受講されたコースの印象はどうでしたか？

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	22	2.3
1. 自分の意図に合っていた	1	601	63.1
2. どちらとも言えない	2	306	32.1
3. 場違いのコースであった	3	12	1.3
その他	4	11	1.2
TOTAL		952	100.0

A42 3) 国立公衆衛生院のコースを実際に受講されて、その企画や運営、その他についてご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

CATEGORY LABEL	CODE	実数	%
	0	596	62.6
記入者	1	356	37.4
TOTAL		952	100.0